

一般質問

安居議員

中部縦貫自動車道について

Q 質問

中部縦貫自動車道用地確保において、鹿谷町中部縦貫自動車道促進対策委員会は、勝山インターチェンジの福井方面への乗車ランプと大野方面からの降車ランプの交差部に信号を設置することに平成8年頃同意した。しかし、今も信号が設置されていない。今後、永平寺大野道路全線開通に向けて更なる交通量の増加が見込まれる。そこで、大野方面からの降車ランプは現在一時停止になっていているが、直接一般道路に出るように改修するよう、工事関係者に要望できないか。

A 答弁

大野方面から勝山インターチェンジへの降車ランプ箇所については、以前から信号機設置の要望を伺っており、勝山市としてもその現状については認識している。これまでも関係機関等に対し、機会があるごとに要請してきた。

今回の提案についても、市として様々な角度からその必要性を検討し、その結果必要であれば、国と協議していきたい。



えちぜん鉄道

その他の質問
経費削減について
小中学校と市営住宅の給水設備について
道路の融雪装置の改善について
指定管理施設等の経費削減について

えちぜん鉄道のサービス向上について

Q 質問

えちぜん鉄道の前身である京福電車時代の昭和40年頃、勝山駅から福井駅までの所要時間は53分だった。現在の所要時間も52分から53分と当時と全く変わっていない。えちぜん鉄道は京福時代より線路も整備され、揺れも少なく、以前よりも速度アップできるのではないかと勝山―福井間を更に時間短縮できないか。

A 答弁

質問内容について、専門的な観点での考え方と判断が必要なため、えちぜん鉄道に確認した。現在えちぜん鉄道では最高時速を70キロメートルとして運行しているが、踏切や橋梁を通過するとき等、安全対策のために通過速度制限が設けられている。仮に駅を通過駅とした場合でも通過時には速度を落とさなければならぬ。

これらの課題を解消するには線路の複線化や踏切、駅等の設備を大幅に改良しなければならず、それにかかる莫大な経費や年月に対して短縮できる時間を考えると、費用対効果を期待することは難しい。

松本議員

市内保育園の定員について

Q 質問

保育園の入園希望を出して、よその保育園に回ってもらいたいと断られるケースが出た。勝山市は生後8週からでも保育園に預かってもらえる制度になっている。子供はいっ何人生まれるかは予想がつかない。余裕のある定員計画を立てるべきではないか。

A 答弁

市内保育園の総定員820人に対し、5月1日現在の在籍数は752人となっている。各保育園の定員については、国において定員の遵守が定められている。また、保護者が保育園を選択する上で重要な判断材料の一つであり、保育事業の健全な運営を図るためにも、定員を毎年増減することは適当ではない。しかし、子育て環境日本一を目指す勝山市としては、年度途中に入所が必要になった場合、施設設備運営基準を満たしているかを確認した上で、保護者の家庭状況に応じて、定員を超えた場合も可能な限り希望する保育園に入園できるように検討する。

市民への栄養指導について

Q 質問

取り過ぎると動脈硬化などを招くとして悪者扱いをされてきたコレステロールについて、日本動脈硬化学会は今年

その他の質問
固定資産税について
湯田山協会の料対象償却資産の把握について
湯田山協会の料対象償却資産の把握について
湯田山協会の料対象償却資産の把握について
湯田山協会の料対象償却資産の把握について

A 答弁

「食事で体内のコレステロール値は大きく変わらない」と発表した。市民への栄養指導でコレステロールの高い卵や肉を制限するようなことがなかったか。おいしいものを楽しく食べ、体を動かし、社会貢献することが本当の健康につながるのではないかと。

A 答弁

健診の結果から、コレステロール値など基準値を超える機関受診のお勧めや、生活習慣の改善のための指導をしている。栄養指導については、食べ方や間食、食事量や内容と生活活動量を確認し、過不足のないよう、個人に合った栄養バランスの良い食事となるよう指導している。

市民行動目標「すこやか勝山12か条」を作成し、全戸配布した。その中で、「食事や間食は時間を決め、毎食食べよう野菜料理」と位置づけ、生涯を健康で過ごすために、食生活をはじめ、運動や心の健康など具体的な取り組みを示した。昨年からは、健康チャレンジ事業では、30分のウォーキングを継続することで、コレステロール値の改善や体力の向上、ストレスの軽減など、効果が示された。

健康のまち勝山の実現に向け、栄養指導も含めた健康づくり事業を積極的に推進していく。



平泉寺保育園